

ペットを飼っていない皆様へ

ペット同行避難者の受入れについて ご理解のお願い

人とペットが秩序ある共同生活を営むためには、ペットを飼っていない方のご理解が不可欠です。

ペットと同行避難した避難者を混乱なく受入れることができるよう、また、避難所において人とペットが安心して避難生活を過ごせるよう、ご協力をお願いします。

同行避難とは？

災害発生時に、飼い主がペットと共に安全な場所まで避難する行為（避難行動）を指します。避難所において、飼い主がペットを同室で飼育管理することを意味するものではありません。



ペットの同行避難が必要とされる理由

災害時に飼い主とペットが離れてしまうと、問題が生じる恐れがあります。

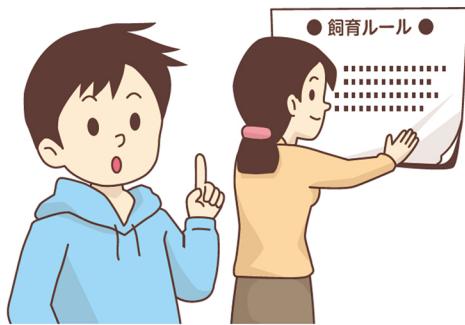
- ① 放浪しているペットに人が咬まれる等の危害、動物由来感染症の発生
- ② ペットの餓死、繁殖、野生化による生活環境の悪化
- ③ ペットの飼い主の精神的・身体的負担

避難所を利用せずペットと車中生活したために、静脈血栓塞栓症（いわゆるエコノミークラス症候群）で飼い主が死亡したケースもありました。

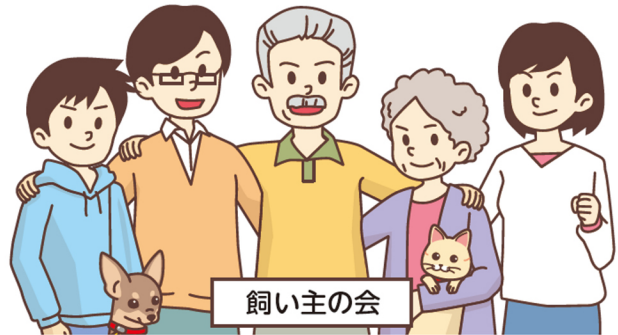
ペットとの同行避難は、飼い主である人の命を守るため、さらに、放浪動物による人への危害の防止、生活環境保全といった観点からも必要なことと考えられています。

避難所でペットはどう過ごすの？

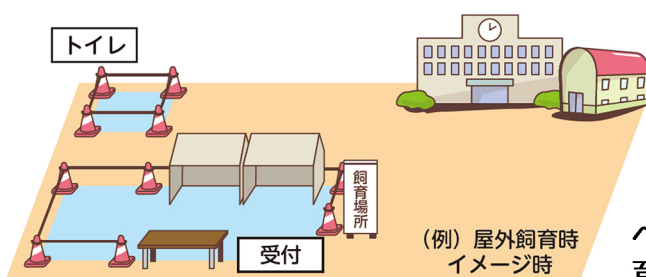
人とペットとの接点が、出来る限り少ない場所に「飼育場所」を設置します。



避難所でのルールを守り、トラブルを予防することで、安全な避難所運営にあたります。



ペットの世話は、飼い主が責任を持って行います。適正な飼育管理が出来るよう、飼い主同士が協力して運営を行うことになります。



ペットはケージに入れるか、つなぎ止めて飼育します。

過去の被災地において、ペットの飼育場所として使用された場所等の一例です

- ◆ 建物内の場合：廊下、倉庫、昇降口の一部、特別教室*1など

*1 授業の再開に配慮する必要がある普通教室を避けました。

- ◆ 屋外の場合： うんてい、鉄棒、サッカーゴール*2、屋根や壁がある渡り廊下、階段下、軒の深いテラス、プールサイド、プール用の更衣室、自転車置き場など

*2 サッカーゴールは横に倒し転倒対策を施した上で、ブルーシートなどで雨風除けを行いました。

- ◆ 人の居住区から離れた場所に、飼育テントやプレハブを設置しました。

同行避難できるペット

犬や猫などの小動物が対象です

人に危害を与える恐れのある動物
温度管理など特別な管理が必要な動物
は受入れることはできません

知らないペットには手を出さない！

ペットも慣れない避難生活でストレスを感じています。いつもは穏やかなペットでも不安な気持ちから、噛みついたり引っ掻いたりすることもあります。知らない動物には安易に近づかないように注意してください。

都や区では、災害時に飼い主がペットを同行して避難できるよう、飼い主に日ごろからの備え（ペットのしつけ・健康管理、防災用品の備蓄等）について普及啓発を行うとともに、避難所等でペットを受入れる体制づくりをすすめています。